

研 究 分 野	増養殖技術	部名	磯根資源部
研 究 課 題 名	多機能静穏域関連調査（養殖試験）		
予 算 区 分	県単		
試験研究実施年度・研究期間	H13～		
担 当	山田 嘉暢		
協 力 ・ 分 担 関 係	西北地方農林水産事務所鰹ヶ沢水産事務所、深浦町役場		
〈目的〉 多機能静穏域の活用推進を図るため、アオワカメ、ツルアラメ、クロモ、エゴノリについて養殖試験を行い、養成特性を把握する。 〈試験研究方法〉 1. アオワカメ 平成 19 年 6 月に大間町奥戸地先から母藻を入手して、子嚢斑が形成されるまで 8℃の冷海水をかけ流しにして管理した。 2. ツルアラメ 平成 18 年 10 月に深浦町北金ヶ沢地先の多機能静穏域で養殖試験を行っていたツルアラメを回収し、葉状部が 1 枚になるように匍匐枝を切断した後、ノレン 30 本に挟みこみ、沖出しした。 3. クロモ 平成 19 年 6 月に深浦町北金ヶ沢地先で採取したクロモを人工採苗して、得られた遊走子をクレモナ糸に付着させ、15℃、40～60μmol/m²/s、中日（12 時間明期：12 時間暗期）条件下で、栄養塩液に PESI 液を用いて 5 日に 1 回、培養水を全量交換して止水培養した。その後暗黒条件下で 10 月まで保存した。 4. エゴノリ 平成 18 年 5 月に外ヶ浜町三厩地先で採取したエゴノリ母藻を 18℃、40～60μmol/m²/s、中日（12 時間明期：12 時間暗期）条件下で、栄養塩液に PESI 液を用いて 3 日に 1 回、培養水を全量交換して止水培養した。4 週間培養した後に、果胞子を落とし始めたので、マイクロピペットで拾い集め、マイクロプレートに収容して、20℃、40～60μmol/m²/s、短日（10 時間明期：14 時間暗期）条件下で培養した。 〈主要成果の具体的なデータ〉 1. アオワカメ 子嚢斑の形成前に葉体が枯れたため、人工採苗に供試することはできなかった。 2. ツルアラメ 沖出し後、匍匐枝からは新たな藻体が発出し、6 月には葉長が 15～20cm に生長した。その後、平 8～9 月にはノレンや葉体に泥、他の海藻が付着し、葉の先端が枯れてきたが、12 月には葉長が 30～40cm に生長した。その後ノレンやツルアラメの根にシュリ貝や他の海藻類の付着が多くなったため、シュリ貝の成長を待って、再度、株分けして挟みこみをする予定。 3. クロモ 平成 19 年 10 月～平成 20 年 1 月に深浦町北金ヶ沢地先に沖出ししたクロモ種苗を、沖出しの翌月			

から平成 19 年 2 月まで毎月観察したが、ノレン及び種糸上にカイメンや海藻などの付着物がつき、種糸上に胞子体の形成は見られなかった。10 月に沖出ししたノレンの鉛の錘やネトロンネット基質に天然クロモの付着が見られた。

4. エゴノリ

平成 20 年 1 月 23 日に深浦町北金ヶ沢地先の多機能静穏域内にある投石漁場西側にあるホンダワラ群落中に、20ml のガラス瓶に果胞子嚢を形成したエゴノリ果胞子 10 瓶分を 1 瓶ずつカルポスポア一バックに入れて設置した。

〈今後の問題点〉

〈次年度の具体的計画〉

同様の試験を継続する。

〈結果の発表・活用状況等〉

深浦町海洋牧場管理運営協議会

水産物供給基盤整備事業年度末報告会